

国際科学技術関係大臣会合の結果について

平成 22 年 10 月 4 日

内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）

1. 日 時： 平成 22 年 10 月 3 日（日） 16：00～18：20
2. 場 所： 国立京都国際会館「Room A」
3. 参加者： 世界から 30 カ国が参加
4. テーマ： 「科学・技術・イノベーションの国際協力」
5. 議事進行：議長である和田内閣府大臣政務官による本会合のテーマの趣旨説明の後、参加国による意見交換を行い、最後に、議長が議論をとりまとめ。
6. 議論取りまとめ：概要以下のとおり
 - 世界各国が安全で質の高い社会及び国民生活を実現するとともに、世界として持続的な発展と共通の課題解決のために科学・技術の役割は更に重要と、必要性について各国で認識共有できたことは有意義。
 - これを中長期的に発展させるには、各国の国家基盤を支える研究開発の推進に加え、科学・技術を担う人材の育成、活用等基礎体力の強化やイノベーションを創出するための社会システムの見直しも重要であることを再認識。
 - 持続可能、安全で質の高い社会の実現に向けて二国間、多国間の取り組み等が参加国から積極的に紹介され、提案を受けた。オープンな場で活発な意見交換を行うことができたのは、こうした会合の意義。これらの取り組みをより進め、パートナーシップを高めることの重要性を認識。
 - 環境、エネルギー、医療、介護など、社会の課題解決に重要な分野における科学・技術等について、積極的に二国間、多国間協調・協力に取り組むことが重要という点で、認識が一致。
 - 財源の制約、ニーズなど国ごとに事情が違中、それぞれの国情に合わせるよう、また、重複を排除し、世界全体での効率的な研究開発システムを構築することが重要。
 - 日本アフリカ間の科学・技術・イノベーション協力ネットワークのハブとなる研究機関の構築に向けた検討を日本とアフリカ諸国が開始することを支持。また、国際機関や他の国々の積極的な参加、協力を歓迎。
 - このとりまとめについては、後日、事務局より送付する。
7. 次回会合について：議長より以下の発言
 - 次回の開催については、各国からご意見をいただきたい。事務局は引き続き我が国が務めていきたいと思う。